



第 17 回 古代ローマの文化

1 古代ローマの文学と思想

- ローマ文化は、ギリシア文化やヘレニズム文化の影響を強く受けていた。
- またローマ帝国で用いられたローマ字、そして公用語の（ ）は、中世ヨーロッパの共通語となり、ヨーロッパ文化の基礎となった。

<ラテン文学>

- () …ラテン文学の大家であり著書多数。カエサルの政敵だった。
- () …ローマ建国叙事詩である『 』を書いた。
- () …叙情詩人。ギリシアに留学し、ギリシア文学にはまった。
- () …叙情詩人。『恋愛術』や『転身譜』を書いた。



元老院で演説する
キケロ(左)。
カエサルやアント
ニウスと対立し、最
後は暗殺された。
著書に『国家論』が
ある。

キケロ



ウェルギリウス

ルネサンス期に書か
れたダンテの『神曲』
では、案内役を務め
ている。『アエネイス』
とは、物語の主人公
の名前にちなむ。
『農耕史』も有名。



オウィディウス

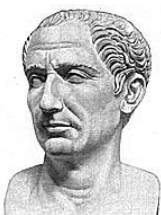
『恋愛術』は、今でい
う恋愛マニュアル本
であった。内容はか
なり強引で卑猥。
それがもとで、アウ
グストゥスの時代に
流刑となった。

<哲学>

- () …ストア派の哲学者で皇帝ネロの師。著書に『幸福論』など。
エピクテトス …ストア派の哲学者で、奴隷身分であった。
- マルクス=アウレリウス=アントニヌス…ストア派の「哲人皇帝」。著書に『 』がある。
プロティノス …プラトンの思想を受け継ぎ、新プラトン主義を創始した。

<歴史・地理>

- () …ポエニ戦争に参加し、『歴史』のなかで政体循環史観を説いた。
- () …ローマの政治家。遠征の記録である『 』はラテン語の名文であり、史料としても重要である。
- () …建国から前9年までの歴史である『ローマ史』を書いた。
- () …ギリシア人の地理学者で、『 』を書いた。
- () …ゲルマン人の風土や社会について書いた『 』や、ローマの退廃を警告した『 』がある。
- () …ギリシア人の歴史家で、ギリシアとローマの英雄を比較した『 (英雄伝) 』を書いた。



カエサル

ローマ史では、政
治面でも文化面でも
重要な人物である。
ユリウスとは、カエ
サルが属する氏の
名である。



タキトゥス

ゲルマン人の歴史
に関しては、『ゲル
マニア』が最も重
要な記録である。
また『年代記』は、
ネロの死までを扱
っている。



ブルタルコス

例えばアレクサンド
ロスとカエサル、デ
モステネスとキケロ
など、類似したキャ
クターの歴史人物を
比較しながら、伝記
を書いている。

<自然科学>

- () …エジプトの太陽暦を修正して、() を作った。
→1582年に() に改良されて使用中。
- () …膨大な百科事典である『] を書いた。
- () …『天文学大全』で「] を主張した。
- ガレノス …ギリシア人医師で、マルクス=アウレリウス=アントニヌスの侍医。

2 古代ローマの建築と社会

- ・ローマ文化は、生活に密着したものに関しては、非常にすぐれていた。
- ・特に土木建築では、石をアーチ状に積む建築法にすぐれ、それまででは考えられなかったような巨大な建造物を各地に建設した。

- ・100万以上の人口を抱えるローマにとって、水の確保は最重要問題であった。
→そこで各地に石造りの() を建設し、ローマに水を運んでいた。
- ・軍隊の移動や情報伝達のための軍道は、総延長 85000 キロに達しており、特に有名なものは、ローマから南イタリアを結ぶ() である。



ガール水道橋

南フランスに残り、現在でも水道として用いられている。1kmあたり的高低差は、わずか34cmである。歩いて渡ることもできる。



アッピア街道



カラカラ浴場

1600人を収容できる大浴場であった。サウナ、プール、体育館、エステ、図書室も完備されており、現代でいう健康ランドのような施設であった。

- ・ローマやその他の都市には、フォルムと呼ばれる広場、カラカラ浴場など公共浴場、戦勝記念の凱旋門、神々をまつる() などが建設された。
- ・() で行われる剣闘士の戦いや、楕円形の競技場で行われる戦車競争が、市民の人気となった。



コロッセウム

西暦 80年に完成。50000人を収容でき、テントで屋根も作られていた。今の東京ドームによく似た構造かもしれない。水を入れて、海戦を行うこともあった。



映画『グラディエーター』



映画『ベン=ハー』

ローマ時代を舞台にした映画は数多いが、この2つが代表作である。どちらもアカデミー賞を受賞した。夏休みや冬休みにぜひ観ましょう。

< >

- ・ローマの法律は、最初ローマ市民権を持つ人々（ほとんどがイタリア半島に住む）に適用される() であった。
→領土が拡大し、3世紀にローマ市民権が全ての平民に与えられると、様々な文化や習慣を持つ人々に適用できる() が成立していった。